

看護過程論	1 年・後期	1 単位	教授
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33110591

1. 授業のねらい・概要

看護過程は看護を科学的に進める思考過程であり、問題解決方法である。看護を効果的に実践する方法論の一つとして看護過程を学習し、患者のニーズを満たすケア提供の技術を修得する。

2. 到達目標

1. 看護理論と看護過程の関係を理解する。
2. 看護過程の意義・目的を理解する。
3. 看護過程におけるクリティカルシンキングを理解する。
4. 事例を用いて看護過程を展開する。
5. 看護記録の基本的な原則について理解する。

3. 授業の進め方

看護過程の基本的構成要素（段階）に沿って講義と演習形式で進める。看護過程を進める上で必要な記録用紙を用いて事例の看護過程を展開する。学習項目により適宜グループ学習を取り入れる。

4. 授業計画（講義）

1. 看護過程の概要（看護過程の構成要素，POS，クリティカルシンキング）
2. 情報収集の視点，枠組みの活用（情報収集）
3. 事例に対する看護過程の演習（情報の整理）
4. 事例に対する看護過程の演習（アセスメント）
5. 事例に対する看護過程の演習（関連図を活用した看護診断：PRS）
6. 事例に対する看護過程の演習（目標設定：L-T-G，S-T-G，計画：O-P，T-P，E-P）
7. 立案した計画の模擬実践と経過記録（実施，実施結果の評価）
8. 経過記録（SOAP），看護過程の評価について

5. 成績評価の方法・基準

定期試験 50%，看護過程記録及び課題レポート 50%について総合的に評価する。

定期試験の受験資格は3分の2以上出席とする。

6. テキスト

茂野香おる他（2020）：系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

松尾ミヨ子他（2020）：ナースンググラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント メディカ出版

リンダ J. カルベニート（2020）：看護診断ハンドブック 医学書院

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

- ・シラバスの授業計画の範囲について最低2時間の予習及び授業内容について最低2時間以上の復習を行う。
- ・看護過程の演習は事例に対する看護過程を段階毎に考え記録してることが前提で、各自の準備を

もとにグループディスカッションを行うので、必ず各段階の思考内容を記録して臨む。

8. 受講上の留意事項

- ・各回は看護過程の構成要素の段階順に組み立ててある。段階順が重要なので欠席などで抜けることのないよう注意する。
- ・思考過程は記録により確認していきますので、時間内で記録が完成しない場合は自己学習により次の授業に間に合わせるようにする。
- ・2年次「受け持ち看護実習」の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

看護過程記録についてはコメントして返却する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する本授業は、看護師としての臨床経験を活かして、講義を行う。